

式辞（抜粋）

今日という日を待っていたかのように校内の桜の花が満開となり、木々が芽吹き始めました。・・・

さて、今日は、新入生の皆さんの入学に当たり、幸せな生活や人生は、どのように生きたら、叶うのかというお話をしてみます。

生き方として、「貧しくも、清く、正しく、美しく」という言葉があります。これは、たとえ、貧しくても、心豊かな生活・人生を送ることが大切だという考えだと思います。

その根底には、「清く、正しく、美しく」生きるのは、融通の利かない生き方でもあり、結果、経済的には恵まれない生活・人生を送ることも覚悟するという意味があるのかなと思います。

この世の中は、うまく立ち振る舞って、時には、ずる賢く、他人の利益よりも、自分の利益第一に生きる生き方が、馬鹿を見ない、得な生き方という考えであろうかと思えます。

本校の建学の精神「成徳・徳を成す人物の育成」、そしておおらかな徳操や勤労の精神など「五つの教育目標」は、「清く、正しく、美しく」生きることとほぼ同一です。

では、本学園の建学の精神「成徳」を大切にして生活したら、つまり、心豊かに生活し、勤労に励むことを大切に生活したら、どのような人生になるのでしょうか。

このことに関して、独立行政法人経済産業研究所という機関が、論文「基本的モラルと社会的成功」というタイトルの興味深い研究論文を三年前に発表しています。論文の一部を抜粋し、保護者の皆様には後程配布させていただきます。新入生の皆さんには、オリエンテーションの際にお渡しします。

その研究論文では、統計的な調査と分析に基づき、四つの躰「うそをつかず、いつも他人に親切で、きちんとルールを守り、勉強をする」という躰を子どもの時に受けていた人が、その後の社会生活においてどのような社会生活を送っているかを、分析しています。なお、四番目の躰「勉強をする」とは「勉強ができる」ではなく、「勉強に努力する」躰すなわち姿勢のことを指していると思います。本校の「高い知性」と「勤労の精神」に通じる躰でもあります。

この四つの躰、「うそをつかず、いつも他人に親切で、きちんとルールを守り、勉強をする」という生き方は、本学園の建学の精神である成徳や五つの教育目標に関連していて、ほぼ同じ内容であります。つまり、正しい行いをする徳を大切にして、勤労に励み、徳のある生活を実行するとどのような生活・人生になるのでしょうか。

この分析研究では、思いの外の結果が出ています。意外に思う方も多いと思いますが、この研究が導き出した分析の結論は、この四つの躰を身につけた生き方が、つまり、成徳の精神、五つの教育目標をしっかりと踏まえた生き方が、心豊かな生活だけ

でなく、経済的にも、安定した生活を送っているということが、統計的にはっきりと証明されるというのです。

例えば、この論文の統計的資料の中で、四つの躰をされた人は、年齢別にみても、全ての年代で、躰を受けていない人と比べて、経済的に豊かな、安定した生活を送っているという統計調査結果になっています。

よくよく考えてみれば、頷けますね。

成徳の精神で、誠実に、常に、正しい行いを行い、勤労に励む生き方は、当然の結果として、他の人が信頼と尊敬を寄せる生き方であります。その生き方は、仕事していても、信用され、仕事もスムーズにはかどるのでしょう。そして、信用されることにより、責任ある仕事、重要な業務を任せられ、結果として経済的にも豊かで安定した生活となっているというのが理由と考えられます。

豊かな生活・人生とは、もちろんですが、一番大切なのは、心豊かに生活を送る人生だと思います。そして、勤労を通じた社会貢献により、世のために尽くすことを喜びと思える心が大切なのだと思います。でも、世の中や他の人に迷惑をかけないで済む経済的にも安定した生活を送ることも大切です。ぜひ、これからの高校生活で、成徳の建学の精神を身につけ、こころ豊かに、そして充実した、幸せな人生を送ってください。・・・

・・・三年後の卒業式の際、ここにいるすべての新入生と保護者の皆様が「東京成徳大学深谷高等学校に来て本当によかった」と思えることを心から願い、私の式辞といたします。

平成二十九年四月七日

東京成徳大学深谷高等学校長 神田 正